

2017年度全南大学校学術研究集会

## 大衆文化にみる韓日の近代

韓日交流の歴史は、日本における世界史の中で最も長いといえる。その交流の歴史の中で近代史を見てみると、過去にないほどに悪化していた時期がある。それは「韓国併合」による日本の朝鮮半島への侵略及び植民地支配の時代で、ヨーロッパのアジア侵略が大いに関わっている。開国した日本は独立国としての地位を維持するために「支配する側」か「支配される側」かの二者択一の状態、前者を選択した。日本の侵略の歴史は、侵略されることを恐れて戦うという理由で始まり、それが朝鮮半島侵略へと繋がっていく。しかしながら、そうした侵略の歴史や政治史的なアプローチからだけでは見逃してしまう「現実における日本および韓国における人々の動向や生活」がある。この研究集会においては「大衆文化」の視点、とりわけ「移動」をテーマにもつことから、そうした人々の動向や生活に光をあて、リアルな韓日の近代を浮き彫りにしていく。

### ■プログラム

主催 全南大学校日本文化研究センター

日程 2018年2月2日(金)

会場：全南大学校（韓国・光州）

■挨拶 金 容儀（全南大学校日本文化研究センター所長/日文研外国人）

13:00-13:30 「趣旨説明」

■発表 杉田智美（国際日本文化研究センター機関研究員）

13:30-14:30 「―「近代」を迂回して― 柳宗悦の朝鮮紀行をめぐって」

14:30-14:50 質疑応答

■発表 石川 肇（国際日本文化研究センター助教）

15:00-16:00 「朝鮮の戦前鳥瞰図 ―旅行から戦争へ」

16:00-16:20 質疑応答

16:30-17:00 全体討論